



Title	「人」を指す名詞が1人称の人物を指す用法について
Author(s)	風間, 伸次郎; KAZAMA, Shinjiro
Citation	北方言語研究, 14, 95-124
Issue Date	2024-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/110531
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92089
Type	departmental bulletin paper
File Information	07_Kazama.pdf



「人」を指す名詞が 1 人称の人物を指す用法について

風 間 伸 次 郎
(東京外国語大学)

キーワード: 「人」名詞、アルタイ型言語、当為、暗示的主要部標示型言語、斜格 1 人称代名詞忌避

1. はじめに

話しことばの日本語では、特定の文脈で「人」を指す語によって話し手、すなわち 1 人称を指すことが先行研究によって指摘されている（以下ではこれを「人」名詞の 1 人称用法と呼ぶ）。すなわち「よくもひとを騙したわね!」のような文である。

1 節から 5 節ではこの「人」名詞の 1 人称用法¹がアルタイ型言語を含む諸言語に広く存在することを紹介し、この現象の言語間における異同について考察を加える。ここでは中国語やロシア語に見られる「人」名詞の 1 人称用法とアルタイ型言語のそれとは若干性格が異なっていることを示す。さらにアルタイ型言語における「人」名詞の 1 人称用法は「他人に～のようなことをすべきでない」という社会的通念を理由に相手を非難するという状況において成立する」という性格のものであることを示す。6 節から 10 節では、特にアルタイ型言語においてこのような現象を成立させている要因について分析・考察を行う。その考察に基づき、日本語における「斜格 1 人称代名詞忌避の仮説」を提示する。この仮説を検証するためにコーパスおよびアンケートによる調査を行う。アンケートについては朝鮮語とモンゴル語についても行い、3 言語における従属部標示／主要部標示の性格の異同を検証する。その結果、斜格 1 人称代名詞忌避の仮説は日本語についてある程度当てはまるが、日本語は朝鮮語とモンゴル語よりも主要部標示の性格が強いことを示す。

2. 先行研究

以下では日本語と朝鮮語、中国語、英語、フランス語、ロシア語について、人間一般を指すことのできる語²の 1 人称用法について指摘した先行研究を取り上げる。なお日本語の先行研究については若干の問題点の指摘と考察を行う。

2.1. 日本語

ここでは鈴木 (1973, 1996) と田窪 (1997) をとりあげる。

鈴木 (1973) は日本語の自称詞・対称詞（それぞれ話し手、聞き手を指す一連の語、親族名称や役割名称を含む）を考察した。さらにその研究の展開の中で、鈴木 (1996: 132-147) では「ひと」が実際には 1 人称の人物を指す自称詞として使われることを指摘した。鈴木 (1996) は石坂洋次郎の 4 つの中篇小説と、平岩弓枝の長篇小説 1 篇から「人」名詞の 1 人

¹ 亀井・河野・千野 (1996: 499) および風間 (2014) を参照されたい。

² 査読者の方からご教示をいただいたが、英語及びフランス語で扱う問題の形式 *one* 及び *on* は代名詞として記述されていて、「人」名詞と呼ぶには問題がある。したがってここではより広く「人間一般を指すことのできる語」とした。

称用法の例を 26 例集めて分析した。その結果、「人」名詞の 1 人称用法は「話者が相手に対して、自分の権利や尊厳が侵害されたことに対する不満、焦燥、怒り、拒否といった心理的対立の状態にある場合に限られる」ことを指摘した。したがって「課長、それは是非ひとにやらせて下さい」などとは言えないという。鈴木 (1996) では次のような例を示している。

- (1) まあひどい。人がせっかく心配してあげてるのに。
- (2) 人をバカにするにも程がある。
- (3) ほら、これはひとに心配させた罰よ。
- (4) 黙ってひとのものを使わないでよ。
- (5) こいつ、よくもひとのことをぶったな！
- (6) あなた、よくもひとを騙したわね！
- (7) 誰だ、君、人の部屋に入って来ては困るじゃないか、、

鈴木 (1996: 147) は「人」名詞が実際には 1 人称を意味して使われる理由について、「自称詞「ひと」は、対話中の話者が、相手から何かしらの被害、権利侵害を被ったと感じ、相手に対して心理的な対立状態に入り、相手に向かって共感同調的なつながりを断つことを示す、相手依存型の言語的自己規定である」としている。

田窪 (1997) は、まず「お父さん」(親族名詞)、「課長」(役職名)などが話し手や聞き手を指すことについて、対話場面の役割によりその値(誰を指すか)が割り当てられるもので、談話文法的規則により決定されるものである、としている。これに対し、「ひと」が話し手を指すことは、推論などにより間接的に話し手を指すのであり、談話文法的規則により値が決まるものではない、としている。以下に田窪 (1997: 39-40) の記述を引用する(例文番号は本稿のものに合わせた)。

(8) ひとのことはほっといてくれ。

(9) ひとの気も知らないで。

この「ひと」は、聞き手、あるいは、別の第三者の視点を一時的に借り、話し手である自分を指す表現である。「ひと」で自分のことが指せるには、この他者の視点が不可欠で、この場合、一種突き放してみている感じを与える。つまり他者の自分に対する扱いに異をとなえる場合に、他者の視点を採用し、他者から見た自分、すなわち、他者の知識中にある自分に関する知識の内容や取り扱いに異議をとなえる表現と見ることができる。したがって、そのような他者の知識を問題にしない文脈では話し手を表すことはできない。

(8') *ひとがいくんですか。(ひと＝話し手)

(9') *それをひとにください。(ひと＝話し手)

「他人」のことはほっといてくれ」という一般的な記述に、たまたま話者である自分を事例として当てはめて表現しただけである。

以上、日本語の「人」名詞の 1 人称用法に関する先行研究の指摘とその存在理由についての説明をみた。以下ではこれらの先行研究に対する筆者自身による若干の考察を述べる。

1 人称の人物に対して 2 人称の人物が良くない行為を行ってそれを咎める場合に、「ひと

が話しているのに、ちゃんと聞いていなきゃダメじゃないか」や「ひとのものを勝手に使うんじゃない」と言うことができ、この場合の「ひと」は1人称を指しているということができる。しかし一方で「ひとが話している時にはいつもちゃんと注意して聞かなければいけないよ」や「ひとのものを黙って使ってはならないんだよ」と言うこともできる。後者の場合はより一般論に近づけて述べているため、「ひと」が意味しているのは「自分以外の他人一般」を指していると考えられる。このように2人称の行為を非難する発話における主語「ひと」が指す意味内容は広く捉えれば「聞き手自身以外で、1人称を含む他人」であり、狭く捉えても1人称を示すものと他人一般を示すものの間には連続性があると考えられる。田窪 (1997) のいうように、現場ですでに起きたことなどからの推論により「人」の対象が間接的に話し手を指すことになると考えられる。

田窪 (1997) は「他者の視点を採用する」と述べているが、むしろ「他人に～のようなことをすべきでない」という社会的通念もしくは一般論の視点からの忌避の当為を理由にして相手を咎める、と説明した方が適切ではないかと考える。

2.2. 朝鮮語

油谷他 (編) (1993: 960) には *salam* 「人」の3番目の語義は「自分、私」となっており、次の例文があがっている。なお本稿での朝鮮語のハングルからの翻字は Yale 式とする。

- (10) *Salam=ul* *etteh-key* *po-ko* *ha-nun* *mal#i-ya*.
 man=ACC *how.it.is-CVB.PURP* *see-CVB* *do-ADNF* *word#be-MOD*
 「人を何だと思って言っているんだ。」 油谷他 (編) (1993: 960)

1 例からの判断ではあるが、「人」名詞の1人称用法が、やはり聞き手を非難する文脈で使われていることがわかる。

2.3. 中国語

任 (2019: 23-24) は“人家”が話し手・聞き手以外の不特定の人を指す他に、具体的な3人称や1人称の人物を指すことがあることを指摘している。万 (2006: 99) からの引用により「“人家”の1人称用法はその3人称用法から転換されたものであるが、聞き手を談話主体として扱い、(中略) 相手の視点から自分を指すと、「私」は聞き手に対して“人家”となる」としている。

任 (2019: 25-26) は“人家”が示す感情表出機能について、杜 (2002: 32) を引用し次の3つの感情を表出する機能があるとしている。すなわち、①話し手が甘えていることを表す、②話し手の照れくささを表す、③不満の気持ちを表す、の3つである。「“人家”の先行研究のどれも1人称用法の“人家”は主に若い女性によって使用されると指摘している」(任 (2019: 26)) という。

任 (2019: 156) は中国語の“人家”と日本語の「人」の1人称用法を対照し、間接的指示の場合に、両言語の1人称用法は対応するとしている。不満というマイナスの感情を示せるという点でも両言語の1人称用法は対応し、置き換えが可能であるという。一方、中国語の“人家”は甘える気持ちを示すこともでき、その場合置き換えは不可能であるという

(日本語訳は原典のまま、太字と下線は筆者による、例文番号は本稿のものに合わせた)。

(11) 人家不想吃粗粮。人家想吃蛋糕。你买个蛋糕给我吧。

「雑穀はいやだ。あたし、ケーキが食べたい。ケーキを買ってきてくれないの」

*「ひとが雑穀は嫌だ。ひと、ケーキが食べたい。ケーキを買ってきてくれないの」

このように中国語においても“人家”に1人称用法が観察された。ただし“人家”が示す感情表出機能は日本語のそれよりもかなり広く、「甘え」などの感情を含むものであった。したがって中国語における「人」名詞の1人称用法は、日本語における「人」名詞の1人称用法とはやや異なるものであると考え、以下ではこれ以上扱わないこととする。

2.4. ヨーロッパの印欧諸語（英語・フランス語・ロシア語）

英語（ゲルマン語派）、フランス語（イタリック語派）、ロシア語（スラブ語派）などの言語において「人」名詞もしくはそれに近い意味を持つ語に1人称用法がないかを確認したところ、次のような記述が見い出された。まず英語に関して、小稲他（編）（1985: 1156-1157）によれば、one の代名詞の語義 4a に「(一般的に) 人、世人、だれでも 口語では one よりも you, we, they のほうが好まれる」とある一方、語義 4b に「[わざと気取った言い方で] 自分 (I, me) : It was in 1982, if one remembers rightly. 確か 1982 年のことでした」と記述がある。

次にフランス語に関して、大槻他（編）（1983: 933）によれば、代名詞 on の語義 I に「『不特定の人』①誰かが、②人は、人々は、③『人間一般を示す』は、④『動作主を明示しない時』」とある一方、語義 II に「『特定の人』①『話』あなた(たち)は *Alors, on est content?* じゃあ、満足ですか？ ②私は (a)『話』 *On peut téléphoner?* 電話をかけていいですか？ (b)『文』 *On montrera dans cet ouvrage que...* 私は本著で ... のことを示したい。③『話』私たちは *Nous, on veut bien.* 私たちは賛成だよ。④彼(女)は、彼(女)たちは *On m'a écrit enfin.* とうとうあれが頼りをよこしたよ。」との記述がある。

ロシア語³に関しては、東郷他（編）（1988: 2601）の *čelovek* の語義 1a) に「人、人間」とある一方、語義 2 には「[人称代名詞的用法] あるひと、彼、(世間の) ひと、だれか : *Emu ničego ne stoit obidet' čeloveka.* 彼は平気でひとの気にさわることをする [言う] / *Čelovek nikogo ne dolžen sebja ronjat'.* 人は誰でも自分の面目をつぶすようなことをしてはならない / *Čelovek ustal (=Ja ustal, On ustal) a vy pristaëte s pustjakami.* ひとが疲れているというのに、あなたときたらつまらぬことでひとをわずらわせる」との記述がある。

特にロシア語の用例の一部にみられる性質は、日本語の例とよく似ている点で興味深い。一方、英語の one とフランス語の on はともに「人(一般)」を指す語義も有してはいるものの、「人」を指すもつとも一般的な普通名詞ではなく、代名詞とされている。英語の one の1人称用法は文語的で気取った言い方であり、フランス語の on における特定の人を指す用法は全人称に亘っている。英語とフランス語の例における上記の代名詞はもっぱら主

³ キリル文字からローマ字への翻字は Timberlake (2004: 25) の linguistic 方式による。以下でも同様である。

語で使われており、特に相手を非難する文脈で使われているわけでもない。したがって英語とフランス語の形式についてはこれ以上扱わない。ただ英語やフランス語のように、使用頻度のきわめて高い閉じた体系の人称代名詞を持つ言語において、こうした人間一般を指す代名詞の1人称用法が存在することは驚きであった。諸言語における今後のさらなる検証を必要とするが、「人」名詞の1人称用法はある程度通言語的に一般的な現象であることが考えられる。

3. ナーナイ語における「人」名詞の1人称用法

ここでは筆者が現地調査により研究してきたツングース諸語のうちのナーナイ語にも「人」名詞に1人称用法の存在することを指摘する。筆者がこれまでに収集してきた一連のテキスト(風間 (1991, 1993, 1995, 1996, 1997, 1998, 2000, 2001, 2002, 2005, 2006, 2007, 2008, 2010, 2012a, 2012b, 2015a))を集積したものをコーパス(約30万語)とし、*nai*(もしくは*naj*)「人」の形式を検索したところ、次のような一連の例が見出された。

- (12) “*Ənug-bə-ni=nuu*, (中略) *xai ənug-bə-ni nai ɣaala-ni*
pain-ACC-3SG=Q what pain-ACC-3SG man hand-3SG
mujiči-məəri pulsi-i-či=ə,” un-dii,
cut-CVB.IPFV.PL go.around-PTCP.IPFV-3PL=MOD say-PTCP.IPFV
 「痛いなあ、どうして痛いことを、人の手を何度も切って行くのでしょうか」と言う。」
 風間 (1993: 226-227)

- (13) “*Anda mærgən, xaiŋgola-mi nai-a tui ərɔlɯu-rii-ni,”*
friend hero do.what-CVB.IPFV man-ACC thus play.a.trick-PTCP.IPFV-3SG
 「「友たるメルゲンよ、どうして人にこんなこといたずらをするの、」」
 風間 (1993: 30)

- (14) “*Gəə sii tui nai-a garala-nda-mi ʃi-či-si=nuu,”*
hey thou thus man-ACC scold-DIRINT-CVB.IPFV come-PTCP.PFV-2SG=Q
 「「さああなたはこのような人を叱りつけるためにやって来たのか、」」
 風間 (1995: 52)

- (15) *Xamačaa-go-ji nai uləələʃiəni aloosi-xam-ba-ni,”*
what.kind.of-CVB.PURP-REF.SG man with.trouble persuade-PTCP.PFV-ACC-3SG
 「(ブチュンは叱るという)「(だめじゃないですか、何のために)人が苦勞して説得したんですか」」
 風間 (1993: 84)

- (16) “*Əi=məə naonjokaan nai-ji okčia-rii-ni*
this=FOC boy man-INS tease-PTCP.IPFV-3SG

ai=məə naonjokaan nai-ji inəktə-i-ni,”
 this=FOC boy man-INS laugh-PTCP.IPFV-3SG

「この子ったら人のことをからかったり、この子ったら人のことを笑ったりする。」

風間 (1995: 52)

- (17) “Nai kupi-gilə-i-wə nai meshala-xam-ba-či
 man play-NEC-PTCP.IPFV-ACC man disturb-PTCP.PFV-ACC-3PL
 ičə-uu-su=m=də.”
 see-IMP-2PL=QUOT=PARTIC

「人がせっかく遊ぼうと思っていたのを、人の邪魔をしゃがって、見ろこのざまだ、」

風間 (1997: 98) (なお斜字体はロシア語からの借用語である)

- (18) “Xooni nai-a tui tanjo-ori-ni,”
 how man-ACC thus do-PTCP.IMPERS-3SG

「どうして 人を こんな風に なさるのです、」と 言う、」

風間 (1998: 32)

ナーナイ語の例においても、やはり聞き手を非難する文脈で用いられている例がその多くを占めていることがわかる。ただ残念ながら現在ロシアでの現地調査は難しく、現時点ではこれ以上の研究ができない状況にある。

4. 聞き出し／アンケートによる調査

ここではまず日本語 (4.1.節)、朝鮮語 (4.2.節)、ロシア語 (4.5.節) についてコンサルタントからの聞き出し／アンケート調査⁴を実施した結果を示す。さらにアルタイ諸言語のうちのいくつかには「人」名詞の1人称用法を持つ言語が存在することが新たに判明したため、これを扱うことにした。具体的にはハルハ・モンゴル語 (モンゴル諸語、以下では単に「モンゴル語」とする、4.3.節)、キルギス語 (チュルク諸語、4.4.節) についての「人」名詞の1人称用法を指摘し、同じく聞き出し／アンケート調査を実施した結果を示す。

2.5.節で行った先行研究の問題点についての考察に基づき、アンケートでは次のような点を問題にする。なおカッコ内は下記の日本語の調査結果における例文番号である。

- ・「人が／人 (のこと) を／人に／人の」など格が異なり、斜格項になった場合に、「人」名詞の1人称用法の容認度に変化はあるか？ 対比のニュアンスが生じるか？ ((19), (20), (21), (24))
- ・2人称の行為を非難するのではなく、褒めるような場合にも1人称用法は成立するか？ ((22))
- ・3人称の行為を非難する場合にも、1人称用法は成立するか？ ((23))

⁴ 紙面の都合上、アンケート本体を付録に添付することは叶わなかった。誠に申し訳ないが、もし検証等、必要とされる方がいらしたら、筆者まで連絡をいただければ幸いである。

- ・「人」は「自分」と対立する概念であるのか？ ((24))
- ・「人」名詞の1人称用法は「他人に～のようなことをすべきでない」という社会的通念もしくは一般論によるものであり、したがって文脈的な推論から1人称に解釈されるとみるべき意味的連続性が観察されるのか？ ((25), (26))

4.1. 日本語に関するアンケート調査

日本語については付録1のアンケートを行い、19名の回答を得た。以下アンケートの例文の順に従って分析する。

まず下記の(19), (20), (21)についてはどれも75%以上の者が「人」名詞の1人称用法が成立するとした。ただしこの順に1人称への置き換えが難しくなり、1人称に置き換えた場合にこの順で対比のニュアンスが強まることがわかった。

(19) について、「人」は話し手のことを指しているとしたのは17/19名で、うち9名は「私」に置き換えても同じ意味であると判断した。自由記述には「文脈によっては第三者に対してひどいことを言った聞き手に対して叱るという状況も想定できる」とする意見が3つあった。「私のことを」に置き換えると「話し手の方により焦点が置かれている感じがする」とする意見もあった。

(19) 人のことを何だと思ってそんなことを言っているんだ。

(20) について、「人」は話し手のことを指しているとしたのは15/19名で、うち7名は「オレのことを」に置き換えても同じ意味であると判断した。一方、「オレのことを」に置き換えると、「他の誰でもないオレを叩いた」という対比のニュアンスが出るとした自由記述が5つあった。「オレのことを」に置き換えた文は言えない、もしくはどちらの文も不自然である、とする記述もあった。

(20) こいつ、よくもひとのことを叩いたな！

(21) について、「人」は話し手のことを指しているとしたのは14/19名で、うち5名は「私の部屋」に置き換えても同じ意味であると判断した。「私の部屋」に置き換えた場合に対比のニュアンスであるとした自由記述が多く、9つあった。

(21) 誰だ君、人の部屋に入って来てはダメだよ。

(22) については、同じ意味であるとするにせよ少しニュアンスが違うとするにせよ、無条件に「人」が話し手を指す、と判断した者はいなかった。「人」が話し手を指すか、3人称の別の人物を指すかは、文脈による、とする者が17名、全く別の意味であるとする者が2名であった。しかし約90%が話し手を指すとする解釈も可能であるとしており、聞き手を非難する文脈のみではなく、聞き手を褒める文脈でも「人」名詞の1人称用法の成立することがわかる。

(22) おまえ、人に勉強教えてから、自分はこれから勉強するなんて、えらいねえ。

(23) については、同じ意味であるとするにせよ少しニュアンスが違うとするにせよ、

18/19 名が「人」は話し手を指す、と判断した。したがって聞き手ではない 3 人称の人物を非難する際にも、「人」名詞の 1 人称用法は成立することがわかる。ただし 3 名は自由記述欄に「人」は文脈によって 3 人称の人物を指すことも可能であると記しており、「私が」に置き換えると対比のニュアンスが出るとする記述も 1 名あった。

(23) タケシったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。

(24) においては同じ意味であるとするにせよ少しニュアンスが違うとするにせよ、19 名全員が「自分」は聞き手を指す、と判断した。「自分」の 2 人称用法は大阪方言などにみられ、同世代に対して用いられるとされている（日本国語大辞典第二版第六巻編集委員会・小学館国語辞典編集部 (2001: 985-986)）。しかし、1 人称を示す「ひと」に対して「自分」を用いた場合には、共通語でも「自分」を 2 人称の人物として解釈することが自然になることがわかる。「ひと」と「自分」は対立する概念として捉えられているものと考えられる。

(24) ひとがせっかく心配してあげてるのに、なんで自分は平気でそんなこととしていられるの？

下記の (25) は 19 名全員が使用可能であると答えた。(26) の文について、「人」は話し手のことを指しているとしたのは 15/19 名で、うち 3 名は「私が」に置き換えても同じ意味であると判断した。(27) については実に 11 名が「(他人が話をしているときには聞かなくてもいいけれど) 私が話しているときには聞け」というような強い対比のニュアンスを感じると記述している。(25) と (26) は全く同じ形式の文であるので、両者にはやはりつながりや連続性があり、一般論を背景にして「人」名詞の 1 人称用法が成立していると考えることができる。

(親として小学校に行って、息子の担任の先生と話をしたところ「お宅の息子さんは授業中に限らず私や友達のことをちゃんと聞いていないことがよくある」と先生に言われ、家に帰ってからそのことを伝えつつ息子に注意する、という状況で)

(25) ひとが話している時にはちゃんと聞かなければだめじゃないか！

(私 (話し手) が話をしているのにちっとも聞いていない息子に対して怒って言う、という状況で)

(26) ひとが話している時にはちゃんと聞かなければだめじゃないか！

(27) 私が話している時にはちゃんと聞かなければだめじゃないか！

4.2. 朝鮮語に関するアンケート調査

朝鮮語については 2 名の話者 (1976 年慶尚南道釜山生まれ (以下 A とする) と 1978 年慶尚北道醴泉郡生まれ (以下 B とする) の 2 名) の方からアンケート調査を行った。グロスはやや簡略なものを用いている。

まず (28), (29) は話者 AB とともに 3 人称の人物も指せるという点で 1 人称代名詞に代えた文とは少しニュアンスが異なるが、1 人称の人物を指せると判断した。

- (28) 「人のことを何だと思ってそんなことを言っているんだ。」を意図した文

Salam=ul mwel=lo po-ko kul-en mal=ul hay.
man=ACC what=INS see-CVB.IPFV be.so-ADN.PFV word=ACC do.IND

- (29) 「こいつ、よくもひとのことを叩いたな！」を意図した文

Ya!, kamhi salam=ul ttayly-e?
 INTJ boldly man=ACC hit-IND

(30) は話者 A は1人称代名詞に代えた文とは違う意味で、一般的なことを言っているように聞こえるのでおかしいと判断した。maumdaylo「勝手に」を入れれば言えるとした。話者 B は1人称を指せるもののニュアンスが異なると判断したが、そもそもこのような文を発話しないと答えた。

- (30) 「誰だ君、人の部屋に入って来てはダメだよ。」を意図した文

Ne nwukwu=ya? Salam pang=ey tuleo-myen an tway!
 you who=Q man room=LOC enter-CVB.COND NEG become.IND

(31) は話者 AB とともに、1人称の人物を指すか、3人称を指すかは文脈による、という判断であった。したがって人を非難するのではなく、褒める文脈でも1人称用法は可能であることがわかる。

- (31) 「人にまず教えてから、自分はこれから勉強するなんて、えらいねえ。」を意図した文

Salam=hanthey mence kaluchy-e cwu-ko casin=un nacwung=ey
man=DAT first teach-CVB.PFV give-CVB.IMPF oneself=TOP later=DAT
 kongpwuha-tani! taytanha-ta.
 study-SUSP amazing-IND

(32) について、話者 A は1人称代名詞に代えても全く同じ意味の文であると判断したのに対し、話者 B は3人称の人物も指せるという点で1人称代名詞に代えた文とは少しニュアンスが異なるとした。

- (32) 「クワンスったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。」を意図した文

Kwangswu iss-canha, salam=i malha-ko iss-nuntey
 PN be-NEG.COP.Q man=NOM talk-CVB.IMPF be-CONC
 cenhwa=lul kkunhe-peli-tela. nemwuha-ci an ha?
 telephone=ACC cut-COMP-DIR.EV be.too.much.of-IRR NEG do.IND

(33) について、話者 A は「自分」を2人称代名詞に代えた文は全く違う意味であると判断したのに対し、話者 B はニュアンスは異なるものの casin「自分」は聞き手や3人称の人物を指せると判断した。ただし聞き手を指す場合にふつうに使われる表現ではないという。

(33) 「ひとがせっかく心配してあげてるのに、なんで自分は平気でそんなことしてられるの？」を意図した文

Salam=i mochelem kekcenghay cwu-ko iss-nuntay,
man=NOM bother.to worry.CVB.PFV give-CVB.IMPF be-CONC
casin=un amwuleh-ci anh-key kul-en il=ul
oneself=TOP how.is-IRR NEG.do-CVB.PURP be.so-ADN.PFV work=ACC
ha-ko iss-nun ke=ya?
do-CVB.IMPF be-ADN.IMPF thing=COP.IND

(34) について、まず[親として小学校に行って、息子の担任の先生と話をしたところ「お宅の息子さんは授業中に限らず私や友達の話ちゃんと聞いていないことがよくある」と先生に言われ、家に帰ってからそのことを伝えつつ息子に注意する、という状況]では話者 AB ともに全く問題なく言えるという判断であった。一方、[私(話し手)が話をしているのにちっとも聞いていない息子に対して怒って言う、という状況]においては、話者 AB ともに 1 人称の人物を指しているものの 3 人称の人物も指せるという点でニュアンスが異なるとした。

(34) 「ひとが話している時にはちゃんと聞かなければだめじゃないか！」を意図した文

Salam=i malha-l ttay=nun ceytaylo tule-yaci!
man=NOM talk-ADN.FUT time=TOP properly listen-NEC

以上、総じて朝鮮語の「人」名詞の 1 人称用法は日本語のそれとよく似た性質を持つことが確認できる。

4.3. モンゴル語に関するアンケート調査

モンゴル語の文例等はキリル文字による正書法からローマ字に翻字して記した。その翻字は次のような方式に拠っている： a = a, б = b, в = v, г = g, д = d, е = je, ё = jo, ж = ž, з = z, и = i, й = j, к = k, л = l, м = m, н = n, о = o, ө = ö, п = p, р = r, с = s, т = t, у = u, ү = ü, ф = f, х = x, ц = c, ч = č, ш = š, щ = šč, ь = ”, ы = y, ь = ’, э = e, ю = ju, я = ja。アンケート調査には 4 人のコンサルタントに協力していただいた。コンサルタントの情報は次のとおりである。

表 1：モンゴル語のコンサルタントの情報

	生年	出身地
A	1989	Övürxangaj 県
B	1987	Ulaanbaatar
C	1989	Zavxan 県
D	1992	Xövsgöl 県

(35) について、話者 A, C は 1 人称代名詞に代えた文と同じ意味であると判断し、話者 B, D は 3 人称の人物も指せるという点で 1 人称代名詞に代えた文とは少しニュアンスが異なる

なるが、1人称の人物を指せると判断した。

(35) 「人のことを何だと思ってそんなことを言っているんだ。」を意図した文

<u>Xün</u> -ijg	juu	gež	bod-ood	
<u>man</u> -ACC	what	QUOT	think-CVB.PFV	
inge-ž		xel-ž	baj-na,	či?
do.in.this.way- CVB.IPFV	say-CVB.IPFV	be-IND.FUT	you	

(36), (37) について、話者 A, B, C は1人称代名詞に代えた文と同じ意味であると判断し、話者 D は1人称代名詞に代えた文とは少しニュアンスが異なるが、1人称の人物を指せると判断した。

(36) 「こいつ、よくもひとのことを叩いたな！」を意図した文

Či muu,	jaa-g-aad	<u>xün</u>	coxi-v?
you bad	do.what-E-CVB.PFV	<u>man</u>	hit-IND.PST

(37) 「誰だ君、人の部屋に入って来てはダメだよ。」を意図した文

Xen be	či, <u>xün</u> -ij	öröön-d	dur-aar-aa
who Q	you <u>man</u> -GEN	room-DAT	liberty-INS-REFL
or-ž	ir-ž	bol-o-x=güj.	
enter-CVB.IPFV	come-CVB.IPFV	become-E-PTCP.IPFV=NEG	

(38) について、話者 C は1人称代名詞に代えた文と同じ意味であると判断したが、話者 A と D は、「人」が話し手を指すか、3人称の別の人物を指すかは、文脈による、とした。話者 B は1人称代名詞に代えた文とは全く違う意味の文になると判断した。

(38) 「おまえ、人に勉強教えてから、自分はこれから勉強するなんて、えらいねえ。」を意図した文

Či <u>xün</u> -d	xičeel	zaa-ž	ög-čix-ööd,	daraa	n'
you <u>man</u> -DAT	study	teach-CVB.IMPF	give-COMP-CVB.PFV	later	3POSS
öör-ijn-x-öö		xičeel-ijg	xij-ne	ge-deg	čin',
oneself-GEN-NMLZ-REFL	study-ACC	do-IND.FUT	say-PTCP.HAB	2SG.POSS	
ünexeer	mundag	jum	aa!		
actually	great	thing	SFP		

(39) について、話者 A, B, C は1人称代名詞に代えた文と同じ意味であると判断したが、話者 D は、「人」が話し手を指すか、3人称の別の人物を指すかは、文脈による、とした。

(39) 「バヤルったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。」を意図した文

Bajar	<u>xün</u> -ijg	jar'-ž	baj-x-a-d	uts-aa
PN	<u>man</u> -ACC	speak-CVB.IMPF	be-PTCP.IPFV-E-DAT	line-REFL

tasal-čix-san.	Büdüüleg	baj-g-aa,	biz=dee?
cut-COMP-PTCP.PFV	rude	be-E-PTCP.PRS	not=SEF

「バヤルったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。」

(40) については4人の話者とも1人称代名詞に代えた文と同じ意味で解釈できると判断した。

(40) 「ひとがせっかく心配してあげてるのに、なんで自分は平気でそんなことしていられるの？」を意図した文

<u>Xün</u>	činij	tölöö	sanaa	zov-ž	baj-x-a-d,
<u>man</u>	you.GEN	for	affection	worry-CVB.IMPF	be-PTCP.IPFV-E-DAT
öör-öö	jaa-g-aad		ing-eed		
oneself-REFL	do.what-E-CVB.PFV		do.this-CVB.PFV		
baj-ž	baj-dag	jum	be?		
be-CVB.IMPF	be-PTCP.HAB	thing	Q		

(41) について、まず[親として小学校に行って、息子の担任の先生と話をしたところ「お宅の息子さんは授業中に限らず私や友達の話をちゃんと聞いていないことがよくある」と先生に言われ、家に帰ってからそのことを伝えつつ息子に注意する、という状況]では4人の話者ともに全く問題なく言えるという判断であった。一方、[私(話し手)が話をしているのにちっとも聞いていない息子に対して怒って言う、という状況]においては、話者A, B, Cは1人称代名詞に代えた文と同じ意味であると判断した。話者Dはともに1人称の人物を指しているものの3人称の人物も指せるという点でニュアンスが異なるとした。

(41) ひとが話している時にはちゃんと聞いていなければだめじゃないか！

<u>Xün</u> -ijg	jum	jar'-ž	baj-x-a-d,	anxaaral-taj
<u>man</u> -ACC	thing	speak-CVB.IMPF	be-PTCP.IPFV-E-DAT	attention-PROP
sons-o-x=güj		bol	bol-o-x=güj.	
listen-E-PTCP.IPFV=NEG	if	become-E-PTCP.IPFV=NEG		

「ひとが話している時にはちゃんと聞いていなければだめじゃないか！」

以上、総じてモンゴル語の「人」名詞の1人称用法についても日本語のそれとよく似た性質を持つことが確認できる。

4.4. キルギス語に関する聞き出し調査

1978年 naryn 生まれの話者の方より、キルギス語にも「人」名詞の1人称用法が存在することを御教示いただいた。このコンサルタントの方は日本語にも堪能であるので、下記の一連の表現を日本語からキルギス語に訳していただいた。これらの例文により本稿ではキルギス語の「人」名詞の1人称用法を紹介する。直訳および元のキリル文字による表記はコンサルタントによるものであり、グロス筆者によるものである。キリル文字からラテン文字への翻字はアクマタリエワ (2013: 6) の方式によった。

- (42) 「人のことを何だと思ってそんなことを言っているんだ。」を意図した文

Sen kiši-ni emne dep oylo-p jat-a-siŋ?
 you man-ACC what QUOT think-CVB.PFV lie-IND.PRS-2SG
 Ooz-uŋ-a kara-p süylö!
 word-2SG.POSS-DAT see-CVB.PFV speak.IMP
 「lit. 君は人のことを何だと思っているの！言葉に気をつけろ。」

- (43) 「こいつ、よくもひとのことを叩いたな！」を意図した文

Sen, emne-ge kiši-ni čab-a-siŋ!
 you what-DAT man-ACC hit-IND.PRS-2SG
 「lit. 君、なんで人（私）を叩くの！」

- (44) 「誰だ君、人の部屋に入って来てはダメだよ。」を意図した文

Sen kim-siŋ öz-üŋ! Kiši-nin bölmö-sü-nö kir-be!
 you who-2SG.POSS oneself-2SG.POSS man-GEN room-3.POSS-DAT enter-NEG.IMP
 「lit. 君、いったい誰だ！人の部屋に入るな！」

- (45) 「タケシったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。」を意図した文

Takeši kiši süylö-p jat-sa,
 PN man speak-CVB.PFV lie-CVB.COND
 telefon-du koy-up sal-dī. Akmak ay.
 telephone-ACC put-CVB.PFV put-IND.PST fool SFP

- (46) (私（話し手）が話をしているのにちっとも聞いていない息子に対して怒って言う、という状況で)「ひとが話している時にはちゃんと聞かなければだめじゃないか！」を意図した文

Kiši süylö-p jat-kan-da,
man speak-CVB.PFV lie-PTCP.PFV-LOC
 kunt koy-up ugu-š kerek!
 attention put-CVB.PFV listen-NMLZ necessary

他に良く使われる表現としては、次の 2 つの表現があるという。

- (47) Kiši-nin jin-i-n kel-tir-e-siŋ 「君は、ひと（私）を怒らせるね。」
man-GEN devil-3.POSS-ACC come-CAUS-IND.PRS-2SG
 (48) Kiši-nin külkü-sü-n kel-tir-e-siŋ 「君は、ひと（私）を笑わせるね。」
man-GEN smile-3.POSS-ACC come-CAUS-IND.PRS-2SG

キルギス語の「人」名詞の 1 人称用法も日本語のそれとよく似た性質を持つことが確認

できる。

4.5. ロシア語に関する聞き出し調査

ロシア語については 1998 年チェボクサリ生まれの話者の協力を得た。筆者の作例をした文をチェックし修正していただき、しかるのちにその文で **čelovek**「人」を 1 人称を指すものとして解釈できるかを訊いた。なおその際には上記の先行研究にあった文も混ぜて訊いた。グロスとは名詞類における性や動詞のアスペクトを省略した簡略なものである。まず次の (49), (50) はいずれも人間一般を指すことしかできず、1 人称に解釈することはできないという。

(49) 「こいつ、よくもひとのことを叩いたな！」を意図した文

Ètot paren' dejstvitel'no **čeloveka** udaril!
this guy.NOM really **man.SG.ACC** hit.PST.M.SG
「lit. (動物やものではなくて) こいつは「人間」を叩いた。」

(50) 「誰だ君、人の部屋に入って来てはダメだよ。」を意図した文

Kto vy? Vam nel'zja zaxodit' v komnatu **čeloveka.**
who you.PL.NOM you.PL.DAT must.not come.in.INF in room.SG.ACC **man.SG.GEN**
「lit. (宇宙人や動物が話していて) 「人間」の部屋に入ってはならない。」
(ètot čeloveka「この人の」に代えれば 3 人称の人物の部屋を指すことができるという)

(51) は人間一般や、ある誰かある人を指すが、やはり 1 人称を指すことはできない。ただし ob ètom čeloveke「その人について」に代えれば特定の 3 人称の人物を指すことができるという。

(51) 「人のことを何だと思ってそんなことを言っているんだ。」を意図した文

Čto vy dumaete o **čeloveke,**
what you.PL.NOM think.PRS.2PL about **man.SG.PC**
kogda govorite podobnye vešči?
when speak.PRS.2PL similar thing.PL.ACC

(52) は文法的にも非文であり、kogo-to「誰かを」にしないと言えないという。kogo-to にすれば 1 人称の解釈も可能であるという。

(52) 「おまえ、人に勉強教えてから、自分はこれから勉強するなんて、えらいねえ。」を意図した文

*Ty molodec, čto tebe prixoditsja snačala učit'
you.SG.NOM great what you.SG.DAT have.to.PRS.3SG at.first teach.INF
čeloveka, a potom učit'sja samomu.
man.SG.ACC and then study.INF oneself.SG.DAT

(53) の čelovek「人」は誰かある一人の人間としては解釈されるが、1 人称には解釈され

ないという。

(53) 「サーシャったら、人が話しているのに電話を切っちゃったのよ。ひどいでしょ。」を意図した文

Saša	povesil	trubku,	poka	<u>čelovek</u>	razgovarival.
PN.NOM	hang.up.PST.M.SG	receiver.SG.NOM	while	<u>man.SG.NOM</u>	talk.PST.M.SG
Èto užasno,	ne tak li?				
it	terrible	not so	Q		

(54) の čelovek 「人」は「私」を指すことが可能で、3人称の他の人を指す解釈も可能であり、逆に人間一般をさすことはできないという。

(54) 人が疲れているというのに、あなたときたらつまらぬことで人をわずらわせる。

<u>Čelovek</u>	ustal,	a vy	pristačete	s	pustjakami.
<u>man.SG.NOM</u>	get.tired.PST.M.SG	but you.PL.NOM	pester.PST.2PL	with	trifle.PL.INS

(55) の目的語 čeloveka は誰かある一人の人間として解釈されるが、その人間には「私」も含まれるので、1人称として解釈することも可能であるという。

(55) 「彼は平気で人の気にさわるようなことを {する／言う}。」を意図した文

Emu	ničego	ne stoit	obidet'	<u>čeloveka.</u>
he.DAT	nothing.GEN	not cost.PRS.3SG	offend.INF	<u>man.SG.ACC</u>

(56) は1人称を指すという解釈が可能であるという。

(56) 「人がせっかく心配してあげてるのに、なんで自分は平気でそんなこととしていられるの？」を意図した文

Daže	esli vy	znaete,	čto	<u>čelovek</u>	bespokoetsja
even	if you.PL	know.PRS.2PL	what	<u>man.SG.NOM</u>	care.3SG
o	vas,	počemu vy	èto delaete?		
about	you.PL.PC	why you.PL.NOM	it do.PST.2PL		

以上 1 人称用法が可能であったのは (54), (55), (56) で、不可能であったのは(49), (50), (51), (52), (53)であった（このうち(54)と(55)は先行研究である東郷他（編）（1988）に元々あった文である）。コンサルタントの内省から判断すると、ロシア語で1人称用法が成立するためには、どうやら文中の何らかの明示的な要素から「人」名詞が「人間／人類一般」ではなく、ある一人の人間に限定されることが必要なようだ。ここで (53), (54), (56) の「人」は節の頭の主格主語で、(49), (50), (51), (52) の「人」は斜格名詞であることに注目したい。ロシア語で文頭の主格主語は基本的に定の主題として解釈される。これにより一人の人間に限定されるものと考えられる。(55) は例外となるが、obidet' čeloveka 「人を侮辱する」という動詞の意味によって一人の人間に限定されるものと考えたい。ただ (53) では一人の人間に限定されるのになぜ1人称には解釈されないのかは不明である。現時点では3人称の人物を主語とし、その人物を非難している文であるためと考えたい。

5. 「人」名詞の1人称用法における言語間の異同についての考察

ロシア語の *čelovek* は「人」を指すもっとも一般的な普通名詞であり、その一部の使用例は日本語のものともよく似ていた。しかし調査の結果、ロシア語で *čelovek* が1人称の人物を指すものとして解釈されるには、定である文頭の主語が何らかの行為を行ってその行為が文の命題の範囲で明確に聞き手に何らかの影響を及ぼしているような状況でなければならないようだ。その成立条件についてはさらに精査する必要があるが、いずれにせよ日本語での「人」名詞の1人称用法に比べてその使用がかなり限定されていることは間違いない。

これに対し、アルタイ型の言語である朝鮮語、モンゴル語、キルギス語における「人」名詞の1人称用法は次のような諸点で日本語のそれとたいへんよく似ている：①主格以外の格が付された斜格名詞では、推論がしにくくなるにつれて容認度が落ちるものの、なお1人称用法が成立する、②3人称の行為を非難する場合にも、1人称用法は成立する、③「他人に～のようなことをすべきでない」という社会的通念を理由に相手を非難するのと全く同じ表現を、文脈により1人称用法で使うことができる。

ただし2人称の行為を褒めるような場合では、モンゴル語での1人称用法の許容度はあまり高くなく、むしろ3人称の人一般を指すと判断した話者が多かった。

以上のようにアルタイ型の言語では機能的にもよく対応する「人」名詞の1人称用法の使用が観察されたが、このことは主要部後置 (head-final) をはじめとするアルタイ型の統語論理と何らかの内的関連を持つものとして説明が可能なのだろうか。この点に関してはさらに以下の6節～10節で考察と分析を進める。

6. 筆者による仮説

2.1. 節でみたように、鈴木 (1996: 147) は日本語で「人」構文が使用される理由を、相手とのつながりを断つ点に求めている。しかしこれはもっぱら「現代日本語の自称の構造は、極めて強い相対的な相手依存型自己規定の性格を持つ」という鈴木 of 自称詞論の観点からの説明である。

鈴木 (1996) は統語論的な考察を行っていないが、「人」名詞はガ、ヲ、ニ、ノと様々な格助詞を取っていることがわかる。「人」を1人称代名詞に置き換えるとどのように感じられるかについて内省してみた。

- (1') まあひどい。私がせっかく心配してあげてるのに。
- (2') 私をバカにするにも程がある。
- (3') ほら、これは私に心配させた罰よ。
- (4') 黙って私のものを使わないでよ。
- (5') こいつ、よくもボクのことをぶったな！
- (6') あなた、よくも私を騙したわね！
- (7') 誰だ、君、私の部屋に入って来ては困るじゃないか、、、

どれも非文ではないが、「人」を使った文よりも他人に対して対比的に「私」であることを強く問題にしているように感じられる。特に (7') はやや変で、文脈によっては相手に非

があることよりも、「私の部屋」に何か特別な問題となる事情があるかのようにも感じられる。アンケートでも、「人」が斜格名詞である文の「人」を「私」に置き換えると、対比のニュアンスが強く感じられるという回答がいくつか観察された。そこで筆者は次のような仮説を立てた。

〔斜格1人称代名詞忌避の仮説〕：そもそも「私に」「私を」のような1人称代名詞の斜格項はその使用頻度が低く、使用した場合にはその項に焦点が当たってしまう。そのため1人称代名詞の斜格項の使用を避け、「人」名詞を用いる。

この仮説を提示した背景を理解していただくためには、先行研究の言説や筆者のこれまでの考えをもう少し説明する必要がある。これを以下に記す。

角田 (2009: 52-53、筆者要約による) は「シルバースティーンの名詞句階層において、動作が高い方に向かう場合には他動詞文は不自然となるが、低い方へ向かう場合には問題がない」と述べた。風間 (2016) ではこれを「有生性方向制限」と呼んだ。すなわち、有生性方向制限があれば、主語項や目的語項が無かったり、無助詞であったりしても、その行為の方向はすでに定まっているので混乱が生じないと考えられるわけである。

1人称>2人称>3人称>親族名詞・固有名詞>人間名詞>動物名詞>無生物名詞

シルバースティーンの名詞句階層

角田 (2009: 48-49、筆者要約による) は「(同じく) 動作が低い方へ向かう場合は能動文が自然で、高い方へ向かう場合には受動文が自然であること」を述べている。久野 (1978: 299) は「発話当事者の視点ハイアラーキー」として「話し手は、常に自分の視点をとらなければならない」と述べている。風間 (2015b) では、受動だけでなく補助動詞「来る」とやりもらいの動詞も一種の反転として機能していること、ならびに主語の人称が述語の方でわかる場合が多いこと、したがって日本語は「暗示的主要部標示型」の言語としての性格を持っていることを指摘した。

本稿ではこの考えを一步進めて、さらに次のように考える。話しことばの日本語では、主語のない文が頻出するが、その場合の主語は1人称であるのがデフォルトである（「運んだよ」、「電話したよ」、「叩いちゃったよ」）。もし上記の有生性方向制限に違反し1人称でない動作主から1人称へ行為が及ぶ場合には、「運んでくれたよ」や「電話してきたよ」、「叩かれちゃったよ」のように何らかの反転形式を用いる必要がある。反転を用いずに「私のために運んだよ」、「私に電話したよ」、「私を叩いたよ」と表現するとかなり不自然である。さらに反転表現はそれだけで動作主と対象についての十分な情報を含んでいるために、「私に」や「私を」を反転表現と共に用いるとその部分に焦点が当たることになる（「私のために運んでくれたよ」、「私に電話してきたよ」、「私は叩かれちゃったよ」）。

ところが本稿で問題にしている「人」名詞の1人称用法の文は2人称または3人称の人物を主題にし、そのことばや態度に不快の念や反発、あるいは怒りを感じ、2人称もしくは3人称の人物を咎め非難する調子で発話される文である。こうした文で1人称の人物に焦点が当たれば、2人称への非難という文全体の伝達の目的とは矛盾することになってし

まう。したがって「人」名詞が用いられる。以上が〔仮説〕のように考える背景に関する補足的説明である。

ただし他のアルタイ型言語でも状況が同様に、上記の〔斜格 1 人称代名詞忌避の仮説〕がこれらの言語でも同じように適用可能であるのかどうかはなお明らかではない。そこで本稿では以下の 8 節と 9 節に示すようなアンケート調査を行った。ただし朝鮮語と日本語の違いについては、アンケート調査中に次の先行研究の存在することを知った。本稿の仮説に関するきわめて重要な論考であるため、次の 7 節でまずその要約を示す。

7. 先行研究

鄭 (2002) は日本の小説 5 冊とそれの韓国語⁵翻訳版 5 冊、韓国の小説 4 冊とそれの日本語翻訳版 4 冊、計 18 冊の小説を分析対象とし、これらの小説の中の会話文から人称詞が用いられている文を取り出して、両言語の原作とその翻訳版に現れる人称詞を同一箇所において対照した。その結果単数形自称詞と複数形自称詞においてはかなりの頻度差があり、日本語に比べ韓国語の方で人称詞が多用されていることを明らかにした。

その理由として、日本語文では授受表現と受動文が頻繁に使われ、人称詞の非出現を促しているのに対し、韓国語ではそうでないことをあげている。さらにまず授受表現が韓国語で使われにくい背景として、①韓国語の授受表現は日本語と違って「～てやる」と「～てくれる」の区別がないこと、②「～てもらう」の形式は、日本語に比べると韓国語ではそれほど広い範囲で使われる形式ではないこと、③授受動詞と使役を組み合わせた「～せてやろうか」のような文も韓国語には見られないこと、をあげている (鄭 (2002: 33))。次に受動文が韓国語で使われにくい背景として、①韓国語での受動文は日本語に比べ非常に使用範囲が狭いこと、②視点对象の一貫性のため主語を固定する傾向が強い日本語は、動作主体中心で談話構成をする韓国語に比べ、受動文が多く用いられること、をあげている (鄭 (2002: 33-34))。「～てくる」を用いる文も内容によっては韓国語に直訳するのが困難な場合があり、その一方で日本語の中でこのような形式は方向性を示すのに有効に用いられており、これらも自称・対称詞の省略を促す一つの要因になっていると考えられるとしている (鄭 (2002: 34))。以下は両言語で書かれた同じ小説の同一箇所での会話文の対照例である (鄭 (2005: 335) による、例文番号は本稿のものに代えた)。

(57) a. わかってくれるだろ。

b. na ihehalsuizzi? 「俺のこと、理解できるだろう。」

鄭 (2005) は中学生以上の日本語母語話者 350 人と韓国語母語話者 350 人の合計 700 人に次のようなアンケートを行った。

【場面 1】あなたの留守中に友人の鈴木さんから電話があったというメモがありました。鈴木さんに電話をかけて確認するとき、あなたはどのような言い方をしますか。

1. わたしに電話した？ (わたしの他にあたし、ぼく、おれなどを使っても結構です。一以

⁵ この節内では鄭 (2002, 2005) の原典の通り、言語名は「韓国語」とする。

下同様)

2. 電話した？
3. わたしに電話くれた？
4. 電話くれた？

【場面2】一人暮らしをしている友人の鈴木さんから、先週引っ越しをしたという話を聞きました。そのとき、手伝いに行けなかったことを残念に思ったあなたはどのような言い方をしますか。

1. どうしてわたし呼ばなかったの？
2. どうして呼ばなかったの？
3. どうしてわたし呼んでくれなかったの？
4. どうして呼んでくれなかったの？

結果は次の表のようであったという（表番号は本稿のものに合わせた）。

表 2：日本語母語話者と韓国語母語話者の授受表現使用と人称詞使用頻度との関係（鄭 (2005: 337)）

		1.	2.	3.	4.	合計
場面 1	日本	38(10.9)	66(18.9)	85(24.3)	161(46.0)	350(100.0)
	韓国	220(62.9)	126(36.0)	3(0.9)	1(0.3)	350(100.0)
場面 2	日本	28(8.0)	40(11.4)	65(19.1)	215(61.4)	350(100.0)
	韓国	227(64.9)	102(29.1)	15(4.3)	6(1.7)	350(100.0)

以上の結果から、韓国語母語話者より日本語母語話者のほうが授受表現を好むという傾向と、日本語母語話者より韓国語母語話者のほうが自称詞の明示を好むという2つの傾向が明らかになったとしている。さらに、韓国語母語話者の場合、回答が1と2にきわめて偏っていることから、「自称詞を明示する」という条件より「授受表現を用いない」という条件のほうが優先していることが証明されたとしている。

8. 調査方法

本稿では日本語全体の類型的特性にも大きな関わりを持つと考えられる〔斜格1人称代名詞忌避の仮説〕の検討を行う。具体的には次の3つの調査を行う。

- [1] 日本語話し言葉コーパスを用いて、「私を」「私に」を検索し、実際にこれらの使用は少ないのか、さらにこれに他動詞もしくは他動詞に準ずる表現が後続する場合、それらの述語にはどれぐらい義務的に(テ)クレル、(テ)クルのような補助動詞が後続しているのかを調査する。
- [2] 日本語母語話者に対して「私 {を／に／の}」と「ひと {を／に／の}」の交換可能性や「私 {を／に／の}」の使用の可否に関するアンケート調査を行う。
- [3] 朝鮮語とモンゴル語についても同様のアンケート調査を行って、日本語の結果と対照

し、斜格 1 人称代名詞忌避の傾向があるのか、それが存在した場合にその程度は日本語とどのぐらい異なっているのか、を検証する。朝鮮語と日本語に関してはすでに上記の先行研究があるが、モンゴル語を含めた結果についての対照に意義があるものとみてこれを行うことにした。

9. 調査結果

9.1. 日本語に関する「私を」「私に」のコーパス調査

『国語研日本語ウェブコーパス』中納言から日本語話し言葉コーパスを選択した。『日本語話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese : CSJ)』は、日本語の自発音声を大量に集めて多くの研究用情報を付加した話し言葉研究用のデータベースであり、国立国語研究所・情報通信研究機構 (旧通信総合研究所)・東京工業大学が共同開発した話し言葉データベースである。検索の結果、「私を」は 137 例、「私に」は 759 例あった。

9.1.1. 「私を」の分析

コーパスの元データの性質によるものか、文法を話題としたものが 6 例あり、さらに、後文脈で「私を」を承けている述語が何であるか判然としないものが 8 例あり、この 14 例をまず考察から外した。「私を 含めて／取り巻く～」となっている例が 16 (12/4) 例あり、これも外した。

残りの述語のうち「(～て) くれる」「(～て) 下さる」などの諸変化形をすべて含む) を伴っているものは 57 例 (53.3%) あったが、これはかなり高い比率であると考え。

「(～て) くれる」を伴わない述語の例には、①無生物などが主語で関係を表すもの（「私を 構成する／作る／中心とする」など）、②悪い意味を示すもの（「私を バカにする／責め立てる／批判する／騙す」など）、③知覚を示すもの（「私を 見る」）などがあり、これらは「(～て) くれる」を後続させるのが難しい述語であるといえるだろう。

総じて「私を」が現れる文では、何らかの阻害要因がない限り、かなりの確率で主要部標示の反転標示である「(～て) くれる」がかなりの頻度で現れていることがわかった。

9.1.2. 「私に」の分析

文法を話題としたもの 11 例、「私に」を承けている述語が何であるか判然としないものが 31 例、「私に しては／したら／してみれば」などが 6 例あったため、まずこれらを除くと残りは 711 例となった。次に大部分の例は「私に (とって／は) 名詞／形容詞／ある／ない／分かる／向いている」など、「(～て) くる」「(～て) くれる」が後続できない述語の例で、これが 499 例あった。したがって残りは 213 例であるが、ここからさらに可能「私に ～できる」38 例、「私に ～てほしい／～てもらう」6 例、使役「私に ～させると／～させれば」8 例、受身「私に ～されて／～されると／～された」14 例を外したところ、146 例が残った。

この残りの述語のうち「(～て) くる」(単なる「来る」も含めた) 及び「(～て) くれる」「(～て) 下さる」などの諸変化形をすべて含む) を伴っているものは 94 例 (65.8%) あったが、これはかなり高い比率であると考え。

「(～て) くる」・「(～て) くれる」を伴わない述語の例の大部分は、「言う／語る／尋ねる／命じる／話す／電話する」などの言語活動の動詞によるものであった。

9.1.3. コーパス調査のまとめ

総じて「私を」「私に」が話し言葉で使われる場合には、おおよそその半数以上の述語が「～てくる」や「～てくれる」のような主要部標示型の反転マーカを伴う。したがってそれらの文では「私を」「私に」は必要ないはずであり、その使用は「私を」「私に」の項に対比的な焦点を当てるものである可能性がある。

9.2. アンケート調査

9.2.1. 日本語に関するアンケート調査

以下は「私に」の使用と、「テクル」と「テクレル」の必須性についての調査である。結果は以下になったが、特に囲み線の部分に注目されたい。

Q9. (タケシとケンジとユウタが駅で待ち合わせることになった。タケシとケンジは来たが、ユウタはまだ来ない。ケンジはユウタの電話番号を知っているというので、タケシはケンジに「連絡してみたらどうか」と言った。その後、数分経ってからの会話である。)

Aに入る文について、次の各選択肢ごとに適当だと思うもの1～3のうちのどれか1つだけにマルをつけてください(複数選択は不可)。

タケシ:「で、どうした?」

ケンジ:「おお、A とにかく早く来いって言ったら、あと5分ぐらいで駅に着くって。」

以下では「言える」を○、「言えるが少し変」を△、「変だ、言えない」を×で示す。

d. 電話したよ。 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○△

e. ユウタに電話したよ。 ○○○○○○○○○○○○○○○△△△△××

a. オレ電話したよ。 ○○○○○○○△△△△△××××××

f. オレユウタに電話したよ。 ○○○○○○○△△△△△××××××

c. オレは電話したよ。 △△△△△×××××××××××

b. オレが電話したよ。 △△△△×××××××××××

Q10. (タケシとケンジとユウタが駅で待ち合わせることになった。タケシとケンジは来たが、ユウタはまだ来ない。ユウタはケンジの電話番号を知っているようなので、ケンジはタケシに「遅れるなら、あいつのことだからきっと電話してくるよ」と言った。その後、数分経ってからの会話である。)

Bに入る文について、次の各選択肢ごとに適当だと思うもの1～3のうちのどれか1つだけにマルをつけてください(複数選択は不可)。

タケシ:「で、どうした?」

ケンジ:「おお、B 寝坊したってさ。これから家出るって。」

d. 電話してきたよ。 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

e. ユウタ電話してきたよ。 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○△△

i. オレに電話してきたよ。 ○○○○○○○○○○○○○○○△△△△×

- f. ユウタが電話してきたよ。 ○○○○○○○△△△△△△△△△△××
- g. ユウタは電話してきたよ。 ○○○△△△△△××××××××××
- j. ユウタオレに電話したよ。 ○○△△△△××××××××××××
- | | |
|---------------|---------------------|
| h. オレに電話したよ。 | △△△×××××××××××××××× |
| b. ユウタが電話したよ。 | △△×××××××××××××××× |
| c. ユウタは電話したよ。 | △×××××××××××××××× |
| a. ユウタ電話したよ。 | ×××××××××××××××× |

Q11. (ユウコは、付き合っている彼氏のタケシが何かに悩んでいるようなので、「何か悩んでいるんじゃない?」と聞いたがタケシは「別に何もないよ」と言う。そうした事情を知っているユウコの友達カナコとユウコとの会話である。)

Cに入る文について、次の各選択肢ごとに適当だと思うもの1~3のうちのどれか1つだけにマルをつけてください(複数選択は不可)。

カナコ:「結局、タケシやっぱり何か悩んでるの?」

ユウコ:「そうなの。あたし、タケシのことが心配なんだよ、って言ったのよ。そしたらね、

C」

- | | |
|------------------|--------------------------|
| b. やっと話してくれたの。 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| c. やっと私に話してくれたの。 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○△△ |
| a. やっと私に話したの。 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○△△△△△△ |
- e. やっとタケシ私に話してくれたの。 ○○○○○○○○○○○○○△△△△△△××
- d. やっとタケシ私に話したの。 ○○○○○○△△△△△△△△××××

Q10. の結果に見るように反転を用いた「電話してきたよ」が完全に文法的であるのに対し、主語を明示した「ユウタ電話したよ」は全く非文法的と判断される。「オレに電話したよ」もほとんど非文法的と判断される。したがってこの結果を見る限り、日本語においては動詞の反転の方が義務的であり、名詞項の出現はむしろ避けられる。すなわち日本語はむしろ暗示的主要部標示型の言語であるといえる。

他方 Q11. ではそれほど顕著な結果は得られなかった。主要部標示の「やっと話してくれたの」は完全に文法的と判断されるが、従属部標示の「やっとタケシ私に話したの」もある程度文法的であると判断される。なお興味深い自由記述として、「やっと私に話したの」は「圧力をかけて話させた」「自白するよう迫った」のような文脈で使う、とした自由記述が2つあった。この理由についてはなお不明である。

Q11. の「やっと私に話したの」と Q9. の「ユウタに電話したよ」を比べると、むしろ前者の方が容認度は高い結果となった。つまり [3 人称 > 1 人称] の方が [1 人称 > 3 人称] より容認度が高かった (> は行為の方向を示す)。したがってこうした人称間での対比においては有生性方向制限を立証できなかった。その一つの理由としては、Q9. で設定した状況の方に、現場の状況から当たり前で言う必要のない情報が多く存在したためとも考えられる。今後はさらに別のシチュエーションを設定して調査・分析を続けて行く必要があると考えている。

9.2.2. 朝鮮語に関するアンケート調査

以下 [A : B :] の部分が話者 A, B による調査結果である (コンサルタントは 4.2.節と同じである)。なお分析については 9.2.3. 節で 3 言語を対照しつつ示すことにする。

Q9.

- | | | | |
|----|-------------------|-------------------|---------------------|
| a. | na | cenhwaha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | I | telephone-PST-IND | 「オレ電話したよ。」 |
| b. | na=yka | cenhwaha-yss-e. | [A : 少し変 B : 少し変] |
| | I=NOM | telephone-PST-IND | 「オレが電話したよ。」 |
| c. | na=nun | cenhwaha-yss-e. | [A : 言えない B : 言えない] |
| | I=TOP | telephone-PST-IND | 「オレは電話したよ。」 |
| d. | cenhwaha-yss-e. | | [A : OK B : OK] |
| | telephone-PST-IND | | 「電話したよ。」 |
| e. | minswu=hanthey | cenhwaha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | PN=DAT | telephone-PST-IND | 「ミンスに電話したよ。」 |

Q10.

- | | | | |
|----|------------|-------------------|---------------------|
| a. | minswu | cenhwaha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | PN | telephone-PST-IND | 「ミンス電話したよ。」 |
| b. | minswu=ka | cenhwaha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | PN=NOM | telephone-PST-IND | 「ミンスが電話したよ。」 |
| c. | minswu=nun | cenhwaha-yss-e. | [A : 変 B : 言えない] |
| | PN=TOP | telephone-PST-IND | 「ミンスは電話したよ。」 |
| d. | cenhwa | w-ass-e. | [A : OK B : OK] |
| | telephone | come-PST-IND | 「電話来たよ。」 |
| e. | minswu | cenhwa | [A : OK B : OK] |
| | PN | telephone | 「ミンス (の) 電話来たよ。」 |
| f. | minswu=ka | cenhwa | [A : 言えない B : 言えない] |
| | PN=NOM | telephone | 「ミンスが電話来たよ。」 |
| g. | minswu=nun | cenhwa | [A : 言えない B : 言えない] |
| | PN=TOP | telephone | 「ミンスは電話来たよ。」 |
| h. | na=hanthey | cenhwaha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | I=DAT | telephone-PST-IND | 「オレに電話したよ。」 |
| i. | na=hanthey | cenhwa | [A : OK B : OK] |
| | I=DAT | telephone | 「オレに電話来たよ。」 |

Q11.

- | | | | | |
|----|----------|------------|--------------|-----------------|
| a. | kuceysey | na=hanthey | malha-yss-e. | [A : OK B : OK] |
| | at.last | I=DAT | talk-PST-IND | 「やっと私に話したの。」 |

- b. kuceyseya malhay cw-ess-e. [A:OK B:OK]
 at.last talk.CVB.PFV give-PST-IND 「やっと話してくれたの。」
- c. kuceyseya na=hanthey malhay cw-ess-e. [A:OK B:OK]
 at.last I=DAT talk.CVB.PFV give-PST-IND 「やっと私に話してくれたの。」
- d. kuceyseya kwangswu ssi na=hanthey malha-yss-e. [A:OK B:OK]
 at.last PN mr. I=DAT talk-PST-IND
 「やっとクワンズさん私に話したの。」
- e. kuceyseya kwangswu ssi na=hanthey malhay cw-ess-e. [A:OK B:OK]
 at.last PN mr. I=DAT talk.CVB.PFV give-PST-IND
 「やっとクワンズさん私に話してくれたの。」

9.2.3. モンゴル語に関するアンケート調査

以下 [A: B: C: D:] の部分が話者 A,B,C,D による調査結果である。なお分析についてはやはり 9.2.3. 節で 3 言語を対照しつつ示すことにする。

Q9.

- a. Bi zalg-a-san. [A: OK B: OK C: OK D: OK]
 b. Zalg-a-san. [A: 少し変 B: 少し変 C: OK D: OK]
 c. Dolž ruu zalg-a-san. [A: OK B: 少し変 C: OK D: OK]
 d. Bi Dolž ruu zalg-a-san. [A: OK B: 少し変 C: OK D: OK]
 I PN DIR call-E-PTCP.PFV

Q10.

- a. Dolž zalg-a-san. [A: OK B: 少し変 C: OK D: OK]
 b. Zalg-a-san. [A: 少し変 B: 少し変 C: 不可 D: 少し変]
 c. Zalg-a-ž ög-sön. [A: 不可 B: 不可 C: 不可 D: 不可]
 give-PTCP.PFV
 d. Zalg-a-ž ir-sen. [A: 不可 B: 不可 C: 不可 D: 不可]
 come-PTCP.PFV
 e. Dolžnad ruu zalg-a-san. [A: OK B: 少し変 C: OK D: OK]
 f. Nad ruu zalg-a-san. [A: OK B: OK C: OK D: 少し変]
 I.DAT DIR
 g. Dolž nad ruu zalg-a-ž ög-sön. [A: 不可 B: 不可 C: 不可 D: 不可]

Q11.

- a. Nadad xel-sen. [A: OK B: 少し変 C: 少し変 D: 少し変]
 talk-PTCP.PFV
 b. Xel-ž ög-sön. [A: 少し変 B: 少し変 C: 不可 D: 不可]
 c. Nadad xel-ž ög-sön. [A: 少し変 B: 少し変 C: 不可 D: 不可]
 d. Bajar nadad xel-sen. [A: OK B: OK C: OK D: 少し変]

e. Bajar nadad xel-ž ög-sön. [A:少し変 B:少し変 C:不可 D:不可]

9.2.4. アンケート結果の3言語間での対照

以下の表中のPNは固有名詞、一は調査しなかった⁶ことを示す。「言える」を2点、「言えるが少し変」を1点、「変だ、言えない」を0点とし、点数の合計を話者数で割って平均点にした数値を示す(小数点第2位は四捨五入した)。なお上から順に日本語で数値の高かった順に並べてある。太字・下線は各言語で最も高かった数値であり、すなわちその表現がその言語ではもっともデフォルトであることを示している。

表3: Q9. (「連絡してみたらどうか」と言ったことに対する数分後の返答)

表現形態 (日本語によって示す)	日本語	朝鮮語	モンゴル語
電話した	<u>1.9</u>	<u>2.0</u>	1.0
PNに電話した	1.5	<u>2.0</u>	1.8
私電話した	1.1	<u>2.0</u>	<u>2.0</u>
私PNに電話した	1.0	<u>2.0</u>	1.8
私は電話した	0.3	0	—
私が電話した	0.3	1.0	—

文脈から名詞項がわかる場合、日本語ではこれを敢えて発話すればその自然さ／許容度が下がっていくが、朝鮮語やモンゴル語では変わらずに許容されることがわかる。ただし朝鮮語で主題助詞や主格助詞を使うと不自然な表現と受け取られることがわかる。なお話者によれば朝鮮語で一番自然な表現は *cenhwa wasse*. 「電話来た。」であるという。

表4: Q10. (「きっと連絡してくるよ」と聞いたことに対しての数分後の情報提供)

表現形態 (日本語によって示す)	日本語	朝鮮語	モンゴル語
電話 (して) きた	<u>2.0</u>	<u>2.0</u>	0
PN 電話 (して) きた	1.9	<u>2.0</u>	—
私に電話 (して) きた	1.7	<u>2.0</u>	—
PN が電話 (して) きた	1.3	0	—
PN は電話 (して) きた	0.6	0	—
PN 私に電話した	0.4	1.0	<u>1.8</u>
私に電話した	0.2	<u>2.0</u>	<u>1.8</u>
PN が電話した	0.1	<u>2.0</u>	—
PN は電話した	0.1	1.0	—
PN 電話した	0	<u>2.0</u>	<u>1.8</u>

⁶ モンゴル語には基本的に日本語におけるようなハとガにあたる区別がなく、いずれにあたる場合でも主格を用いることがふつうである。シテクルに対応するような「来る」を意味する動詞による補助動詞の表現もない。したがってこれらは選択肢が作れないため、調査しなかった。

ここでも前問と同様に、名詞項の明示は日本語で許容度が下がるが、朝鮮語とモンゴル語ではそうではないことがわかる。特に Q10. は日本語ではテクル表現が用いられるため、その傾向がより強く現れている。一方、モンゴル語には補助動詞に *ir-*「来る」を使う表現は成立しない。朝鮮語では「電話来た」のような表現であるが、これを用いても名詞項で表現しても許容度は変わらない。朝鮮語では主要部標示（補助動詞による標示）と従属部標示（名詞の格による標示）のいずれも許容されるのに対し、モンゴル語ではもっぱら従属部標示の方が好まれることがわかる。

表 5 : Q11. (彼氏に「悩んでいないか」訊いて得た情報を事情を知る友人に話す表現)

表現形態（日本語によって示す）	日本語	朝鮮語	モンゴル語
話してくれた	2.0	<u>2.0</u>	0.5
私に話してくれた	1.9	<u>2.0</u>	0.5
私に話した	1.6	<u>2.0</u>	1.3
PN 私に話してくれた	1.5	<u>2.0</u>	0.5
PN 私に話した	1.1	<u>2.0</u>	<u>1.8</u>

ここでも文脈や補助動詞から自明な名詞項の明示は日本語で嫌われるのに対し、朝鮮語では補助動詞で表現しても名詞項で表現しても、さらに両方を用いてもいずれも許容される。モンゴル語の *ög-* では朝鮮語同様、ヤルとクレルの対立が存在しないが、このようなケースではクレルの意味で使うこともできないようだ。基本的に名詞項の方で関係が標示されている。

9.3. 斜格 1 人称代名詞忌避の仮説の検証結果についてのまとめ

日本語話し言葉に関するコーパス調査では、「私を」「私に」を含む表現の半数以上の述語が「～てくる」や「～てくれる」のような主要部標示型の反転マーカを伴うことがわかった。さらなる研究を必要とするが、日本語はやはり暗示的主要部標示型言語としての性格を有しており、従属部標示よりも主要部標示の方の必須性の高いことが考えられる。

アンケート調査によってもそのことはある程度裏付けられた。これに対し朝鮮語とモンゴル語では日本語のようにやりもらいの補助動詞や受身など主要部標示の要素は十分に用意されておらず、その使用頻度も低い。一方、文脈からわかる名詞項であってもその使用の必須性が高いことが明らかになった。

10. まとめと今後の課題

本稿の前半部分では「人」名詞の 1 人称用法」がアルタイ型言語を含む諸言語に広く存在することを紹介し、この現象の言語間における異同について考察を加えた。そこでは中国語やロシア語に見られる「人」名詞の 1 人称用法とアルタイ型言語のそれとの間には性格の違いがあることを示した。さらにアルタイ型言語における「人」名詞の 1 人称用法は「他人に～のようなことをすべきでない」という社会的通念を理由に、基本的に相手を非難するという状況において成立する」という結論を示した。本稿の後半部分では特にアル

タイ型言語においてこのような現象を成立させている要因について分析し、日本語における「斜格1人称代名詞忌避の仮説」を提示した。この仮説を検証するためにコーパスおよびアンケートによる調査を行った。アンケートについては朝鮮語とモンゴル語についても行い、3言語における従属部標示／主要部標示の性格の異同を検証した。その結果、斜格1人称代名詞忌避の仮説は日本語についてはある程度当てはまるが、日本語は朝鮮語とモンゴル語よりも主要部標示の性格が強いことを示した。

以下に今後の課題を示す。

日本語と同様のコーパス調査を朝鮮語およびモンゴル語についても行って、その結果を対照する必要がある。アンケート調査についても、さらに条件を統一してより多数のコンサルタントからの情報を得て判断する必要がある。キルギス語をはじめとするチュルク諸語やツングース諸語の調査と、その結果についての言語間の対照も課題である。

[謝辞]

本稿は、北方言語学会第6回大会で発表させていただいた内容が基になっている。学会で発表を聞いてくださった先生方、コメントを下された先生方に感謝申し上げる。特に中国語の先行研究を御教示くださった湘潭大学の鄭瓊花氏とキルギス語の当該現象を御教示くださったアクマタリエワ ジャクシルク氏に深く感謝申し上げたい。貴重なコメント・御指摘を下された2名の査読者の先生方にも深くお礼申し上げたい。そして何より時間を割いて例文の適格性を判断するとともに貴重なコメントを下されたコンサルタントの方々に深くお礼申し上げたい。ただし本稿におけるいっさいの誤謬は筆者の責に帰すものである。

[略号一覧] (Leipzig Glossing Rules にないもののみ) ADNF: adnominal form, COMP: completive, CONC: concessive, DIRINT: directional-intentional, E: epenthetic consonant/vowel, EV: evidential, HAB: habitual, IMPERS: impersonal, MOD: modality, NEC: necessitative, PARTIC: particle, PC: prepositional case, PN: personal noun, PROP: proprietive, SFP: sentence final particle, SUSP: suspicious.

[参考文献]

- 愛知大学中日大辞典編纂所(編)(1996[1968])『中日大辞典 増訂第2版』東京:大修館書店
- アクマタリエワ ジャクシルク(2013)『キルギス語の〈持続〉を表す補助動詞 —jat-, tur-, otur-, jür-を中心に—』東京外国語大学大学院総合国際学研究科提出の博士論文
- 杜道流(2002)〈指代詞“人家”的修辞作用〉《当代修辞学》第3期(筆者未見)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京:三省堂
- 風間伸次郎(1991)「ナーナイ語テキスト」『ツングース言語文化論集 1』61-134. 札幌:北海道大学
- 風間伸次郎(1993)『ナーナイ語テキスト』ツングース言語文化論集 4. 小樽:小樽商科大学言語センター
- 風間伸次郎(1995)『ナーナイの民話と伝説』ツングース言語文化論集 5. 小樽:小樽商科大学言語センター

大学言語センター

- 風間伸次郎 (1996) 『ナーナイの民話と伝説 2』 ツングース言語文化論集 8. 鳥取：鳥取大学
- 風間伸次郎 (1997) 『ナーナイの民話と伝説 3』 ツングース言語文化論集 10. 東京：東京外国語大学
- 風間伸次郎 (1998) 『ナーナイの民話と伝説 4』 ツングース言語文化論集 12. 金子亨（編）『「北方ユーラシア先住諸民族の言語文化の資料データベース作成とその類型論的研究」研究成果報告書第3分冊』千葉：千葉大学
- 風間伸次郎 (2000) 『ナーナイの民話と伝説 5』 ツングース言語文化論集 14. 東京：東京外国語大学
- 風間伸次郎 (2001) 『ナーナイの民話と伝説 6』 ツングース言語文化論集 15. 文部科学省特定領域研究(A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 報告書 A2-005.
- 風間伸次郎 (2002) 『ナーナイの民話と伝説 7』 ツングース言語文化論集 18. 文部科学省特定領域研究(A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 報告書 A2-020.
- 風間伸次郎 (2005) 『ナーナイの民話と伝説 8』 ツングース言語文化論集 27. 千葉：千葉大学
- 風間伸次郎 (2006) 『ナーナイの民話と伝説 9』 ツングース言語文化論集 32. 千葉：千葉大学
- 風間伸次郎 (2007) 『ナーナイの民話と伝説 10』 ツングース言語文化論集 36. 札幌：北海道大学
- 風間伸次郎 (2008) 『ナーナイの民話と伝説 11』 ツングース言語文化論集 40. 札幌：北海道大学
- 風間伸次郎 (2010) 『ナーナイの民話と伝説 12』 ツングース言語文化論集 48. 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎 (2012a) 『ナーナイの民話と伝説 13』 ツングース言語文化論集 53. 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎 (2012b) 『ナーナイ語諸方言の研究』 ツングース言語文化論集 54. 東京：東京外国語大学
- 風間伸次郎 (2013) 『ナーナイ語諸方言の研究 2』 ツングース言語文化論集 57. 東京：東京外国語大学
- 風間伸次郎 (2014) 「日本語の類型について —「アルタイ型言語」の解明を目指して—」北方言語ネットワーク（編）『北方言語研究』4: 157-171.
- 風間伸次郎 (2015a) 『ナーナイの文化と生活 1』 ツングース言語文化論集 60. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎 (2015b) 「日本語（話しことば）は従属部標示型の言語なのか？ —映画のシナリオの分析による検証—」『国立国語研究所論集』9: 51-80.
- 風間伸次郎 (2016) 「地域的・類型論的観点からみた無生物主語について」北方言語ネット

- ワーク（編）『北方言語研究』6: 81-110.
- 小稲義男・山川喜久男・竹林滋・吉川道夫（編）（1985 [1967]）『新英和中辞典 第5版』東京：研究社
- 久野暉（1978）『談話の文法』東京：大修館書店
- 任曉雪（2019）『談話における現代中国語の人称代名詞「人家」に関する研究』九州大学大学院地球社会統合科学府提出の博士論文
- 日本国語大辞典第二版第六巻編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典第二版 第六巻』東京：小学館
- 大槻鉄男・佐々木康之・多田道太郎・西川長夫・山田稔（共編）（1983 [1978]）『クラウン仏和辞典 第2版』東京：三省堂
- 鈴木孝夫（1996）『教養としての言語学』東京：岩波書店
- 田窪行則（1997）「日本語の人称表現」田窪行則（編）『視点と言語行動』13-44. 東京：くろしお出版
- 鄭惠先（2002）「日本語と韓国語の人称詞の使用頻度：対訳資料から見た頻度差とその要因」『日本語教育』114: 30-39.
- 鄭惠先（2005）「日本語と韓国語における人称詞の使用実態：アンケート調査の分析結果から見る頻度差と用法の相違」『計量国語学』23(7): 333-346.
- Timberlake, A. (2004) *A reference grammar of Russian*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 東郷正延・染谷茂・磯谷孝・石山正三（編）（1988）『研究社露和辞典』東京：研究社
- 角田太作（2009 [1991]）『世界の言語と日本語 [改訂版]』東京：くろしお出版
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎（編）（1993）『朝鮮語辞典』東京・ソウル：日本・小学館 韓国・金星出版社共同編集
- 万中亚（2006）〈从视角转换看“人家”的语义〉《周口师范学院学报》第6期（筆者未見）

On the Usage of Nouns Meaning “Person” to Refer to the 1st Person

Shinjiro KAZAMA
(Tokyo University of Foreign Studies)

In spoken Japanese, previous studies have pointed out that in certain contexts, words meaning “person” refer to the speaker, i.e., the first person (hereafter, this phenomenon is referred to as the first person usage of “person” noun).

This paper is largely divided into two parts.

In the first part of this paper, I will show that this first person usage of “person” noun is widespread in various languages, including Altaic-type languages, and discuss how this phenomenon differs across languages. It is shown that there is a significant difference between these phenomena in Indo-European languages and those in Altaic-type languages. I conclude that the first person usage of “person” noun in Altaic-type languages is valid in situations where the person is accusing the other person of something on the grounds of the socially accepted notion that one should not do something like that to another person.

In the second part of this paper, I will analyze and discuss the factors that contribute to this phenomenon, especially in Altaic-type languages. Based on this discussion, I propose a hypothesis of oblique first person pronoun avoidance in Japanese. To test this hypothesis, I conduct a corpus and questionnaire survey. The questionnaire will also be administered to Korean and Mongolian, and the differences in the degree of dependent/head marking in the three languages will be examined. The results show that the hypothesis of oblique first person pronoun avoidance is true to some extent for Japanese, but that Korean and Mongolian show the feature of head marking-type more than Japanese.

(かざま・しんじろう kazamas@tufs.ac.jp)